

銅・アルミ

市況見通し

6月

銅

連続で前年同月に比べプラスとなった。

4月の伸銅品生産（速報値）は、前年同（推定値）は同9・5%減の4万7400ト。2カ月出荷数量は減少傾向にある。

ある。

5月の電気銅建値は、上旬の142万円から一時147万円まで上昇し、月末には144万円となった。供

銅スクラップ景況予想

給は需要を上回り、在庫増の兆候が見られた。

中にはドル安・円高方向への動きも想定している。

アルミ

1ト、アルミスクラップが同13・1%減の3万1253ト、アルミ缶が同25・7%増の6445ト。

アルミスクラップ景況予想

市中の銅スクラップの流動性は、悪化傾向だった。一部業者では価格下落を警戒して、買い渋り・売り渋りの両極端が進行した。

LME銅・為替予想

LME銅予想の供給（南米中心）では、チリ・ペルーの鉱山で労働争議や水不足が継続している。

4月のアルミ生産量は板類・押出類（合計）は同2・5%増の14万5081トとなり、前年同月比で2カ月連続のプラス。4月の生産量は板類が同4・3%増の9万2659ト、押出類が同0・4%減の5万2422ト。

輸入はアルミ新地金が同37・6%増の10万5853ト、アルミ二次合金が37・2%増の9万4015ト、アルミスクラップが同47・1%増の1050ト、アルミ合金スクラップが同11・5%増の72ト。

自動車・建設向けの需要は弱く、スクラップからの再生インゴット需要も伸びを欠いている。夏場は工場の稼働調整（盆前在庫調整など）もあるため、短期的に買い控え傾向が強まる可能性があるという。

銅輸出は、電気銅が同1・1%増の5万9241ト、銅スクラップが同8・1%減の3万2294ト。

銅輸入は、電気銅が同458・8%増の1464ト、銅スクラップが同30・4%増の2万5225トだった。

6月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9400～10200ドル	横ばい
電気銅建値	136～155万円	強い
為替（1ドル）	141～148円 （1カ月間T/M）	横ばい

中国を中心とした需要面では、5兆元規模の景気刺激策（25年5月発表）により、インフラ用銅需要が6月に本格化する可能性がある。中国・国家備蓄局（SRB）の買い増し観測もあり、強い現物需要が相場を支えるという。

輸出はアルミ新地金が同21・3%減の247ト、アルミ二次合金が同2・8%減の96

6月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2450～2650ドル （現物後場買い）	強い
スクラップ	ゼロ～プラス10円 （前月最終価格より）	強い

供給は、やや増加傾向。4月のスクラップ輸入量は前年同月比47・1%増の1050トと大幅に増加。建設・住宅着工の減少により一部需要は減っている。自動車リサイクル経由の発生量は、限定的とみている。

橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート



銅輸入は、電気銅が同458・8%増の1464ト、銅スクラップが同30・4%増の2万5225トだった。